

## ペースメーカー植込後,心房リードにて筋攣縮(Twitching)を呈した一症例

◎瀨川 彩可<sup>1)</sup>、師岡 紗代<sup>1)</sup>、川上 祐里<sup>1)</sup>、富田 友佳<sup>1)</sup>、青木 梨花<sup>1)</sup>、栗木 春佳<sup>1)</sup>、西本 奈央<sup>1)</sup>、木村 賢司<sup>1)</sup>  
医療法人 天神会 新古賀病院<sup>1)</sup>

## 【はじめに】

筋攣縮(Twitching)とは心臓再同期療法(CRT)等での左室ペースングによって横隔膜,あるいは横隔神経を刺激し律動的に横隔膜がひくつきを起こす症状である.

Twitching が起きた際にはリードの位置調整,ペースング極性の変更,出力の調整等で対処が一般的である.

今回,ペースメーカー植込術後,心房リードにてTwitching を呈した一症例を経験したため報告する.

【症例】59歳,女性

[主訴]右胸部のひくつき

[既往歴] 洞不全症候群(SSS)のため,2021年にペースメーカー植込術を施行.

Abbott 社製 ASSURITY PM2272

[来院時検査所見]

心電図:HR 60ppm,ペースメーカー調律(AP-VS)

胸写:前回と比較しリード位置変化なし

ペースメーカーチェック:心房心室閾値良好

[経過] 仰臥位でのペースメーカーチェックにて心房リー

ドの出力3.5V/0.4msで右胸部にTwitchingを認めた.

Twitching防止のため,閾値を確認したのちに心房リードの出力を2.0V/0.4msへ変更した.心室リードの出力の変更ではTwitchingを認めなかった.その後,Twitchingは無く経過中.

## 【考察・まとめ】

通常,CRTなどで使用される左室リードは冠状静脈内に留置する事が多く,横隔膜あるいは横隔神経に近い位置となりTwitchingを起こす事がある.一方,心房リードは右心耳に留置することが多く,Twitchingを起こすことは少ない.しかし,本症例では心房リードを右心耳に留置することが困難であり,下位心房に留置した結果,心房リードが右横隔神経を刺激しTwitchingを起こしていたと考えられる.そのため右胸部でTwitchingを起している際には,心房リードの位置の確認等も考慮する必要がある.

連絡先 新古賀病院 生理機能室 0942-38-2276